

第1回教育振興基本計画策定委員会 概要

日 時	平成30年5月23日（水）午後1時30分 ～ 午後3時
場 所	教育委員会会議室
出席者	<p>委員 9人（堀内委員欠席）</p> <p>事務局 教育長、教育部長、財政課長（総務部長代理）、企画政策課経営戦略係長（理事兼企画政策部長代理）市民協働部長、こども希望部長、文化振興課長、スポーツ振興課長、こども希望課長、学務課長、学校教育課長、社会教育課長、図書館長</p> <p>教育部長、教育政策室長、教育政策室係長、教育政策室指導主事 教育政策室主任</p>
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員委嘱</p> <p>4 正副委員長あいさつ</p> <p>5 自己紹介・事務局紹介</p> <p>6 趣旨説明</p> <p> (1) 策定委員会設置について</p> <p> (2) 策定作業の進め方について</p> <p> (3) 平成30年度教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」の概要について ※事務局より説明</p> <p>7 議事</p> <p> (1) 教育に関する意見交換 テーマ「これからの掛川市の教育に望むこと」</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力、考える力、表現する力を付けるためにはどうしたらよいかということで、読書活動の推進を行っている。1日の読書時間がゼロという大学生が半分以上になった。中学校まではある程度読むが、それ以降は減っていく。実は、中学生の読書量も少し減ってきており、少し考える必要がある。一番大きな理由は睡眠時間が減っていること。睡眠時間を削ってデジタル関係、ゲームやスマホに費やしている。学習時間は減っていない、睡眠時間が減っている。このことが考える力、表現する力に影響していると聞いたことがあるので、そのことを含めて読書教育について考えていただければと思う。 <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も普段大学で授業をしている。つかえつかえ読んだり、新聞を取っていない学生が多いと聞くので、本当にそうなんだということがよく分かる。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛川工業高校の評議員をしている。掛川工業高校の生徒は本を沢山借りていると聞いた。 <p>私は、学校を出るまでは純文学とかは嫌いでもほとんど読まなかった。社会に出て、無知の知、知らないことを知るといふことに出会った。知らないことはつまらないことだという認識をした。</p> <p>私の読書量はすごい量だと思う。同年代の人の2～3倍は少なくとも読んでいると思う。中国の古典などの歴史書を多く読んでいる。</p> <p>どう興味を持たせるのかということが大事。私は、高校1年の時、先生と喧嘩をして</p>	

国語の授業を一度も受けなかった。それでも卒業できた。

何かのきっかけで火が付くと、本当に文学、歴史は面白い。いろいろな人の思想は面白い。何らかの形で子どもに面白さを伝えて欲しい。歌のさびの部分だけを教えるような感じで。先生が面白いと思う本の、面白い部分だけを読んであげる。興味をそそるような教育をすれば、感性や哲学、理念、理想、そういったものがどんどん養われていくのではないかと思う。

日本の教育は知識教育が多い。海外では決断と判断。人としての判断。道義的な判断をいかにするかという教育が比較的日本では少なく、ドイツ、スイス、フィンランドなどのヨーロッパでは、人としてどう判断するか、人道上どう判断するか、という教育をしている。だからいじめとかという問題もそこに通じてくるのではないかと感じている。意外と教育者は外にいかないけれども、タイ、ベトナム、インドネシアなどでもそういう判断を求める教育というのはすごく多い。日本でももともと教育していたこと。ちょっと忘れてしまっている気がする。

いろいろなところで切り口はある。面白おかしく、子どもの興味をくすぐるような教育をしていただきたい。いろいろな組織を作ることが仕事だと思うが、実務はそうではなくて、各個人をくすぐる。私の会社の従業員がつまらなそうな顔をしていたので、知らないことを覚えた、明日はまた新しいことを一つ覚える、無知の知、知らないことを知ることが大切だということをお話している。いろいろな先人の言葉を引用して、あなたを育て、慈しんでいるのだということをお話していくことがひじょうに大切だと思っている。

【委員長】

- ・高校で読み聞かせが効果を上げているという話を聞いたことがある。

【委員】

- ・高校生の息子から、高校には読み聞かせはないのかと聞かれた。園、小学校、中学校で読み聞かせをしてもらってきて、高校はないのかな、となった。絵本から児童文学にいく子は少ない。ブックトークで子どもの興味をそそるということをやってくれる方がなかなかいないということもあるかもしれない。学校で感想画を書かせるためにブックトークをしてあげると、読みたくなる子が増える。字ばかりの本でもここが面白いんだよと教えてあげると読みたくなる。ボランティア、図書館、図書館司書、図書館司書は今年度から学校に来てくれる日が増えた。中学校ではいつ図書館が開いているんだろうと思う時もあった。スマホに時間を費やすのではなく、本を読めば楽しいと私は思う。

【副委員長】

- ・社会教育委員長として、市に提言をしたり、市から諮問を受けて答申した。すべて家庭教育に関するものだった。高校で読み聞かせをしてそこで初めて本の大切さを知る子どももいると思う。私が現役（教員）だった時には、学級文庫の横に「本は頭の体操、心の栄養」と書いた紙を掲げて、一生懸命読み聞かせを行ったし、読み聞かせのボランティアさんにもたいへん助けられた。本来、本は家で読むものであり、学校で本を読む時間はほとんどなくなって読み聞かせだけになっていると思う。家で本を読むことが大切だと考えている。ゆったり本を読める安心感のある家庭、和やかな気持ちでいられる家庭で、本を読んでみようかな、お母さんにこの本の話しをしてみよう、というようなことが家庭の中で行われて、お母さんが、「すごい本だね、お母さんも読んでみたいな。」と認めてあげることが家庭の中にあると、子どもの育ちにいいのではないかと読書に関しては思っている。乳幼児から小中学校、高校も家庭教育の範疇で、お母さん方も悩みながら子育てしているので、それを支えてくれる地域だったり、近所の人、機関がきちんと支援されていくということも大事だと思う。そういうところを見ていってあげないといけないと思っている。

【委員】

- ・現行計画の基本目標にある「凜とした」というのは難しい言葉ではないかと思う。方法論は沢山書いてあるが、具体的にどうするのかの仕組みが書かれていない。掛川らしさを教育の中に取り込むことがあっても、報徳思想を土台として「凜とした」という言葉が出てきていると思うが、せっかく良い言葉があるので、人を育てるという観点から、新計画で具体的にどうすべきかということ、私はまちづくりの立場から参画しているので、まちづくりイコール人づくりなので、本来人としてどうあるべき

かの形ということで「凜として」ということがあるのかもしれないが、それを出来れば具体的な形でどうするかという仕組みを作り上げていければと思う。

【委員長】

- ・この目標を最初に見たときに「凜とした」が市民にどう受け止められているかと思った。

【委員】

- ・家庭教育について、そういう大人を育てるような教育をやってしまったということではないか。こういう日本を作っている。身勝手主義が日本人の多くを占めている。勉強をやる、やらないのも自由というように、自由とか権利を履き違えている。本来、親は子どもを慈しむ、愛情を注いで立派な大人になるように育てていくはずなのに、おまえはおまえ、俺は俺みたいな雰囲気を作ってしまった。そんな雰囲気を作ってしまったのが今の状況で、その反省を踏まえてこれからの教育を考えていかなくてはいけない。凜とした大人にしていく、凜とした社会にしていくことに繋げていく、反省をもとに捉えるとまた違った切り口が見えてくるのではないかと思う。

【委員長】

- ・これから教育の各分野の基本的な考えに基づいた施策について細かく決めていくことになるが、最終的にそれを統合する目指すべき市民の姿、目指す姿を一語でまとめることになるので、その時に今までの文言が今後の指針になり得るかどうかの議論が必要ではないかと考えている。

【委員】

- ・小中一貫教育、何を柱に一貫というのか、明確にあった方がよい。大きな遺産としては、報徳の教えがある。これを大事にすることが一つある。もう一つは、これだけ速い速度で情報化が進んでいる。それと、読書教育のような手作り感のあるものと、バランスよく配置しないといけない。そのうちにタブレットを全員に持たせましょうという話しになった時に、きちんと検証してから進めるのはいいが、検証できないまま先に進んでしまうことも多い。その時に何か柱がないとたいへんなので、バランスよくアナログとデジタルを。民間企業はきちんとした成果が求められるが、教育の成果は目に見えてこないもので、単純に費用対効果ということにはならないと思う。ならないということをきちんと説得できる論理を持っていただきたい。一貫ということを考えて時に、何を視野に一貫したらよいのかを考えていただきたい。

【委員長】

- ・全国で小中一貫教育が進んでいる。何を以て一貫させるのかということは大切なテーマである。

【委員】

- ・幼稚園の園児の母親の就労率が高くなっている。仕事の時間を長くする、仕事を始めるお母さんが増えている。仕事をやりながら子育てはひじょうに難しい。園では家庭教育学級でアンガーマネージメントの講座などを行った。働きながら子育てできる体制ができると良いと感じている。園で出来るだけ情報を保護者に伝えていきたいと考えている。

【委員】

- ・子どもがスマートフォンを持つのは何歳くらいからか。6年生でも持っている子が多い。中学生になるとどれくらいの子が持っているのか。

【教育長】

- ・前に勤務していた学校（中学校）では9割が持っていた。最近は小学校低学年でも持っている子が多い。小学校、中学校へは持ち込み禁止としている。防犯上の理由の場合には学校と相談することとしている。

【委員】

- ・スマホを捨てれば偏差値が10上がるという本がある。衝撃的なタイトルだが、中味を読むと学問的にきちんと証明されている。読書を推進する立場からはスマホは大敵である。最近子どもになりたい職業の一つがユーチューバー。5時間くらい平気でユーチューブを見ている子どもがいる。視覚優位の子どもが増えている。人の言うことを聞かないと言われている。聴覚優位の方が人の話をよく聞ける。一度取り憑かれてしまうと、なかなか難しい。人と触れ

ずに済むことができる。とても便利だが、情報化の功罪をきちんと検証する必要があるのではないか。

【委員】

- ・今、5歳児を育てている。その中で感じたことで、現計画の幼児教育のところに、「規則正しい食生活やしつけを大切にされた教育」を行いたいとあるが、これが幼児教育で一番だと思う。ここをきちんとしておくことが社会生活の基礎になる。ここを大事にした幼児教育が必要ではないかと思う。
掛川らしさ、ということでは生涯学習、現計画では学ぶ点しか書かれていないが、学んだものを活用するというに言及して欲しい。学んだものを高齢者に対して活用する。各地域で外に出られない高齢者に対して、地域の公会堂等を会場として、地域のリーダーとして活動するような施策があったらよい。

【委員長】

- ・生涯学習社会の実現は、教育の最終テーマではないかと思う。学ぶ機会がちゃんと確保されて、その結果が正当に評価され、いろいろな活動の場で活かされる、そういう社会にならないと、生涯学習社会の実現にはならない。そう言った点も含めて、掛川市教育振興基本計画を構成していく必要があると考えている。
現行計画の冒頭に幼児教育を掲げていることに感動した。就学前教育がひじょうに重要であるという知見がたくさん出てきている。それに10年前から気付いていたということが素晴らしい。
幼児教育、学校教育、社会教育の根底に人生の各ステージを貫く形で図書館を位置付けているのもよい。生涯学習の基盤である。ここもすごいと思った。
次回は基本構想の原案が事務局から提示されると思うが、国、県の計画は基本方針ごとに各分野の施策を散りばめている。この形がよいのか、現行の掛川市の計画のような分野ごとのくくりがよいのか、その前提があって基本構想が提起されてくると思う。

【副委員長】

- ・10年前と変わってきたこととして、幼児教育が組織的にも大きく変わってきた。少子高齢化が際だってきて、小中一貫教育をこれからどうしていくのかも大きな課題。高齢者の生きがいも大事。
家庭教育はだめになったわけではない。教育格差が大きくなってきている。
学校が忙しくなっている。
そう言った課題にどう向かっていくのかを考えていくことも必要ではないかと考えている。

- (2) 今後の日程調整等について
※事務局より説明